鎌倉 深沢地区まちづくり

――あなたと考える、あたらしいまち――

深沢地区まちづくりの「テーマ」と「まちの将来像三つの視点」

鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会やパブリックコメントを経て、まちづくりのテーマ「ウェルネス」の具体的な方向性として、「まちの将来像三つの視点」を定めました。この三つの視点から、まちの未来を描きます。

深沢のウェルネスを探求するまちづくり

「ウェルネス」という言葉が「深沢地区のまちづくり」のテーマとされている。「ウェルネス」とは一九六一年、アメリカの公衆衛生学者だったハルバート・L・ダン博士（Halbert L. Dunn 一八九六―一九七五）によって提唱された概念とされている。いわゆる「健康」よりも広い意味をもつもので「社会との繋がり」「適度な運動」「豊かな食生活」「十分な睡眠」「満ち足りた気持ち（マインドフルネス）」を含むとされる。「ウェルネス」は「病気ではない身体状態」を指すものではなく、人が生きてくうえで「心地よいと感じる均衡点にある状態」といえるだろう。

現在、都市において建築物がつくられるとき、建物をなるべく低く地面に近くし、その土地の自然に馴染ませ、さらに住民の視点をもって設計することが世界的な潮流になっていると聞く。「ウェルネス」は「人」を中心としたテーマであり「住民視点をもった建築」に相通ずる。

鎌倉は、日本で初めて本格的な禅を取り入れた地であり、「進取の気風」があるまちだ。古都であることを誇りとしつつ「ウェルネス」という新しい価値観をもとにした「まち」をつくっていくチャレンジ。伝統を守るために革新に挑む。古都の新しい挑戦がはじまっている。

※二〇二〇年一月二五日「鎌倉市制80周年記念まちづくりシンポジウム」における鎌倉市長と隈研吾氏の講演内容をもとに書きおろし

「まちづくり」といったときに、
なにをつくることを指すのだろうか。
やはり、「建物」なのだろうか。
いや、深沢のまちづくりは
建物づくりだけを指すのではない。

人がいて、学びがある。
人がいて、商いがある。
人がいて、暮らしがある。
学ぶ人、働く人、住む人の「過ごす時間」や
「生活」、そして「人生」といった
形のないものをつくっていくことを
深沢のまちづくりでは目指したい。
だから、ウェルネスなのだ。

ウェルネスは、
その土地、その時、その人によって変わるもの。
商店、企業、行政、そして住民とともに
探求しながらつくっていくのだろう。

イノベーションを生み出すまち

産官学民が共創する場をつくりだし、住民生活の向上につながるテクノロジーの応用を促します。
新しい産業創出と住民生活の向上の両立に挑戦します。

人が成長できる環境と交流がうまれるといいですね

湘南アイパーク
久野氏

今ある商店とこれからくる企業とで新しい賑わいをつくりたいね

深沢中央商店会 会長
小宮氏

仕事も子育ても両立できるまちになると嬉しいな

鎌倉市行政実務研修員
和田氏

事例紹介

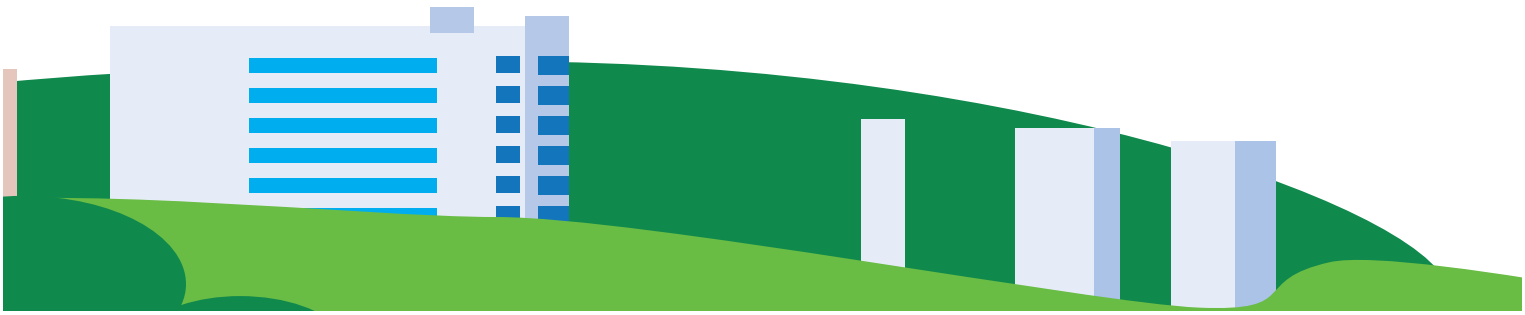
鶴岡サイエンスパーク── イノベーションを生みだす人を応援する仕組みづくり

山形県鶴岡市、田園風景のなかに「鶴岡サイエンスパーク」がある。約21ヘクタールの敷地に慶應義塾大学先端生命科学研究所をはじめ、合成クモ糸繊維を開発するスパイバーをはじめとするベンチャー企業が集積しており、地方創生の成功モデルとして注目を集めている。ここに「地域課題をクリエイティブに事業としてデザインし解決する」という理念のもと、宿泊事業、子育て事業、農業、人材紹介業を展開するまちづくり会社「ヤマガタデザイン」がある。

ここに企業や新事業が生まれるのはなぜか。「サイエンスパークをつくる挑戦があって、挑戦を応援する文化が街に根付いている。企業、行政、市民までもが挑戦を応援してくれる」と長岡氏が力強く言う。イノベーションを生みだすために、深沢でも挑戦を応援する文化を産官学、住民と育むことが必要だろう。

ヤマガタデザイン株式会社
事業推進部門
広報マネージャー
長岡氏

(右)「子供達が冬場の天気の悪い日にも体を思いっきり動かし遊べる場所が欲しい」という子育て世代のニーズをうけてつくった全天候型の児童遊戯施設「ソライ」 (左上)庄内の田園のなかに建てられた「ショウナイホテル スイデンテラス」 (左下)2001年竣工、最先端のバイオテクノロジー研究施設「慶應義塾大学先端生命科学研究所」



あらゆる人と環境にやさしいまち

省エネ・ゼロカーボンを目指すまちでありつつ、災害時には防災拠点となる。
ひとにやさしく頼り甲斐あるまちづくりを目指します。

楽に安心して歩いて健康につながるような環境があるといいよね

鎌倉市身体障害者福祉協会 会長
木村氏

ぼくたち住民が住みやすい観光都市だと嬉しい

深沢中学校
生徒

親子供と同居するからこそ災害に強いまちを考えて欲しいな

深沢保育園
保護者

事例紹介

田町スマエネパーク――災害に強い、人に優しい街

一九七一年、大気汚染問題の深刻化にともない都市ガスを使った「地域冷暖房センター」が新宿で稼働しエリアの冷暖房を一手に担った。「環境に優しいまちづくりに貢献する理念は、このときからあった」と小西氏は言う。

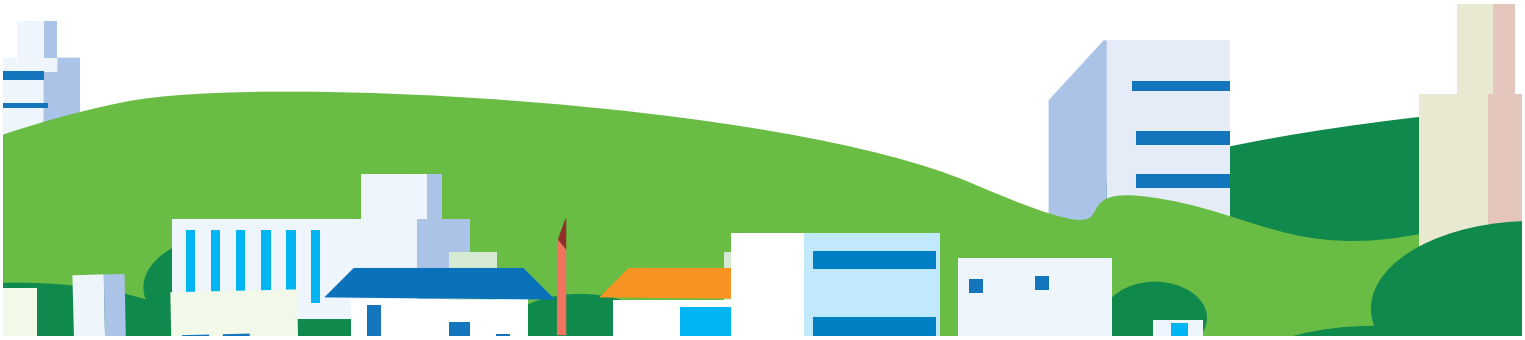
その思想を引き継ぐコンセプトが「スマートエネルギーネットワーク（スマエネ）」であり、実際にまちづくりに導入されたのが「田町スマエネパーク」。街全体でエネルギーを地産地消し、省エネ・省CO_2で環境負荷が少ない。さらに、と小西氏が続ける。「災害による広域停電時、強靭な中圧ガス導管によって、電力・冷暖房が供給継続され、BCD（業務継続地区）が確保されるとともに、近隣ビルの方々や帰宅困難者を受け入れることができる」。災害に強いだけでなく「逃げ込める場所になる」ことは、深沢のまちづくりに必要な思想だろう。

東京ガス株式会社 執行役員
都市エネルギー事業部長
小西氏

柏の葉――公民学の連携を可能にする組織が生みだす住みやすい環境

「柏の葉キャンパス」駅周辺では、公民学が連携してまちづくりが進められている。二〇〇五年「つくばエキスプレス」が開業し、まちづくりが始まった当時のことを聞く。「住民はまばらながら、公民学の関係者は『キャンパスタウン』をつくる、と理想を掲げていた」と三牧氏は語る。UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）は、柏の葉の「まちづくりに関するシンクタンク」として機能し、行政、企業、大学が連携する核となりエリアマネージメントを推進する。二〇一六年十一月、エリアにある雨水流出を抑制するために造られた「調整池」を改修し親水空間「アクアテラス」をつくった。つまり、治水空間が住民の憩いの空間となったのだ。多様な視点を取り入れることによって深沢のまちも、あらゆる人にやさしくなるはずだ。

UDCK 副センター長
三牧氏



こころとからだの健康を育むまち

自然にからだを動かしたくなる環境があり、スポーツを通じた交流を生みだす。からだだけでなく心身の健康を育むまちづくりを目指します。

心と体は連動しているから体を動かし心にハリをもたらすまちがいいよね

徳洲会体操クラブ 監督
米田氏

歩くことは健康につながるから老若男女が歩いて楽しいまちを！

鎌倉市スポーツ推進委員
連絡協議会 会長
河田氏

病気になる前・なった後も寄り添うことができるまちだといいですね

湘南鎌倉総合病院 事務長
芦原氏

事例紹介

大手町・丸の内・有楽町エリア――働くだけの街から「歩いて楽しい街」へ

昔の景観を残すことを意識し、地上31メートルの連続した表情線により統一感があるビル群のなか、石畳の丸の内仲通りは歩いて心地よい。二〇〇二年、「丸ビル」の完成が、このエリアの再開発にとって転換点となった。

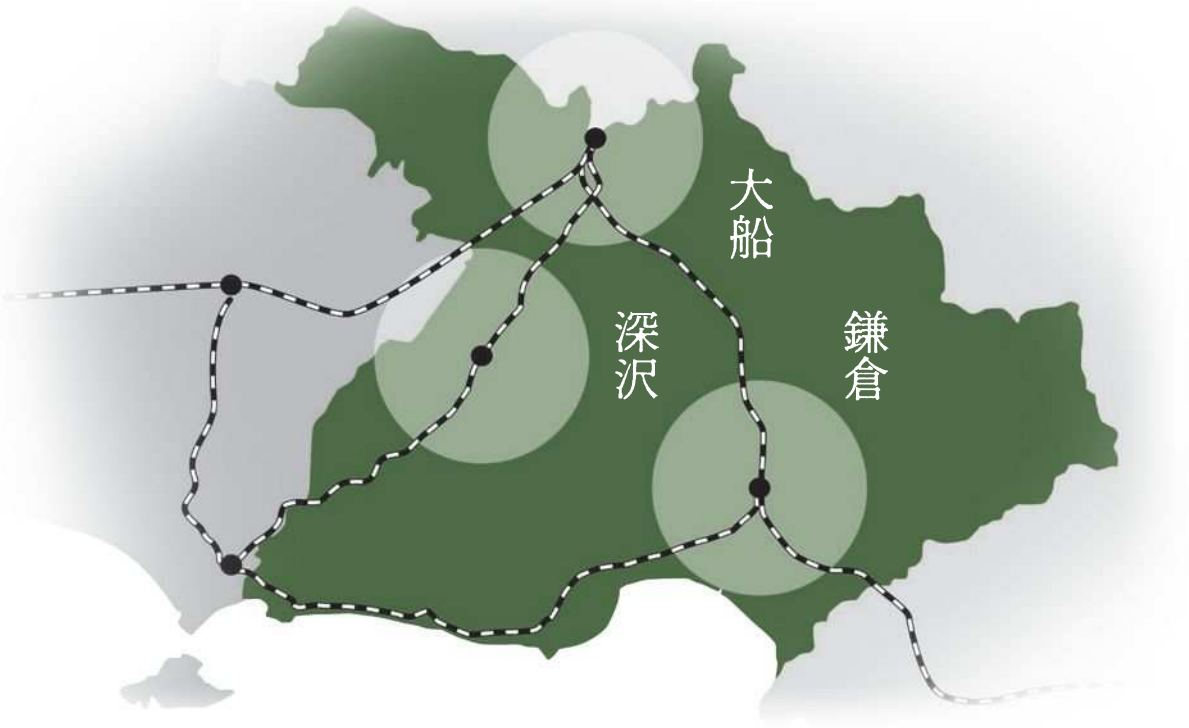
「90年代後半、黄昏の街とも揶揄されていました」と中嶋氏は苦笑する。リガーレ（大丸有エリアマネジメント協会の通称）は「賑わい創出」「環境の改善」「コミュニティ形成」をテーマに活動するまちづくり団体。「まちに多様な側面をもたらし交流を生みたい」と中嶋氏はひとつの事例をあげた。

「特区制度をうけた道路でラジオ体操を開催。働く人の健康のためにはじめましたが、企業を超えた人の交流もうまれています」。ソフト面への取り組みがあって街が魅力的になる。深沢のまちづくりにも取り入れたい考えだ。

特定非営利活動法人
大丸有エリアマネジメント協会
中嶋氏

（右）日本を代表するビジネス街にある丸の内仲通り、ランチタイム後に開催された「丸の内ラジオ体操」　（左上）昔の景観を残すことを意識されて統一された地上31メートルのライン　（左下）このエリアの夏の風物詩「丸の内 夏祭り」

未来への期待に応えるために



平地の少ない鎌倉市において、この深沢地区のまちづくりの事業区域である約31ヘクタールの土地は、大変貴重なものです。市では、深沢地区を、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に次ぐ、「第三の都市拠点」とするため、産官学そして市民が手を取り合いながら、「共創」によって、笑顔あふれる未来のまちを創りたいと考えています。

土地区画整理事業スケジュール

- 2021　都市計画決定
- 2022　事業認可
- 2023　仮換地指定
- 2024　基盤整備工事着手

工事

順次供用開始

換地処分
主要施設竣工
まち開き

鎌倉市役所　まちづくり計画部　深沢地域整備課